



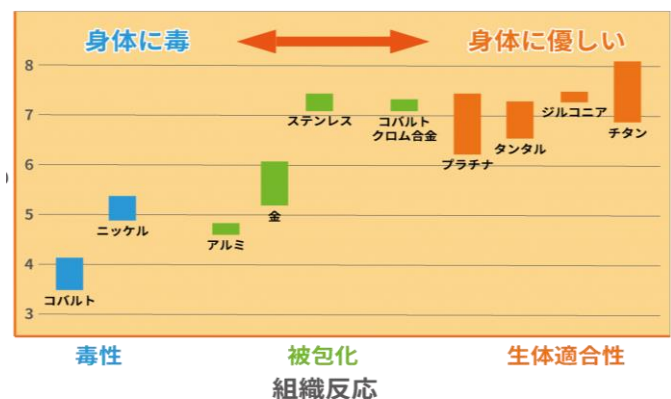
## 歯科金属アレルギー？



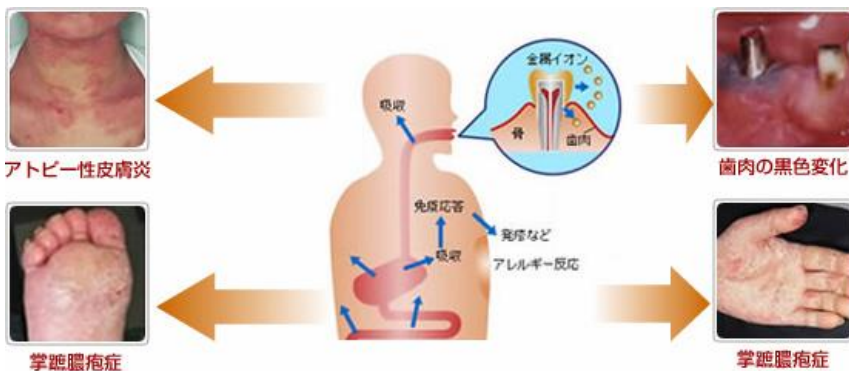
歯科治療で使われている金属の多くは、ほぼ無害といわれています。しかし、口の中は唾液があり、金属の成分が溶け出しやすい環境にあります。歯科治療で使用されている金属から起こるアレルギーの場合、口の中の粘膜や全身の皮膚、さらにはその両方に発症する場合があります。とはいえ、金属アレルギー全体の中で、歯科治療で使用された金属が原因となっているケースはかなりまれなようです。

**全身性接触皮膚炎**は、食品、薬品、歯科治療に使用した金属からの、わずかな金属が血流によって体の中をめぐり、アレルギー反応を引き起こします。金属から離れた場所の皮膚や粘膜に水虫やじんましんのような症状が出るので、ほかの病気と区別しにくいのが特徴です。

### 歯科で使用される金属



### 全身性接触皮膚炎



- ✓皮膚科で治療してもなかなか治らないところがある。
  - ✓アクセサリなど金属製品にかぶれやすい。
  - ✓歯科治療を受けた後に症状が現れた。
- 以上3つにあてはまらず、金属アレルギーを疑われた場合、歯科と皮膚科が連携した治療や検査を受ける必要があるかもしれません。

「金属をなくせば治る」と思い込み、歯科治療で取り付けた金属を外す治療を受けるだけでは治らない場合もあります。気になる事があれば、いつでもお気軽にご相談ください。